

No.170

2013.  
2.1

# 改革の博物館

編集兼発行

〒501-3941 関市小屋名  
(岐阜県百年公園内)

岐阜県博物館内  
岐阜県博物館協会  
TEL 0575-28-3111

## 博物館と社会教育とソーシャル・キャピタル

名古屋大学大学院 松田 武雄



博物館は、明治初期に近代博物館が創設されて以降、社会教育の施設として捉えられ、第二次世界大戦後に法律上、それが明記された。しかし、社会教育関係者にとっては公民

館が何と言っても社会教育施設の王道であったし、逆に博物館関係者にとっては、博物館を社会教育施設と規定することには抵抗があったのではないだろうか。

しかし、近年、博物館学芸員から社会教育について学びたいという声を聞くようになった。実際、中小都市における博物館自体、かつて私が学生の頃そうであったように、ただ博物資料を収集・調査して保存し、展示するというような存在ではなくなってきた。公民館のように市民が参加して、資料を収集・調査し、市民にわかりやすく魅力のある展示を工夫する、学校教育と連携して学校の教育課程の中に博物館のプログラムが位置づく(総合的な学習の時間など)、子どもや市民を対象とした体験活動やワークショップを行う、一見博物館に関係のないようなコンサートなどのイベントを開く、など近年の博物館の大きな変容は目を見張るものがある。公民館の事業と重なって見えることもある。

国立博物館や専門博物館等、希少価値のある資料を展示している博物館はともかくとして、普通の自治体の博物館が、現在の財政危機の中で、従来のような博物資料の収集・調査・保存・展示をするだけでは、存立意義を確保していくことが難しいという認識が生じてきたのではないかと思われる。もちろん、そのような外在的な理由ではなく、博物館本来の機能を考えた場合に、地域に根ざし

た社会教育としての機能が新たに求められるという認識も生じてきたものと思われる。そうした社会教育の機能は、特に戦後の公民館の実践と理論の中に蓄積されており、現代の博物館が公民館の歴史から学ぶことは少なくないのではないかと思う。

とはいえ、公民館も博物館と同様、現在の自治体の行財政改革の直撃を受け、きわめて厳しい状況に置かれている。まず公民館数がピーク時に比べ2500館以上減少し、職員数はそれ以上に減少している。事業費も2分の1もしくは3分の1に減少している。さらに、公民館は生涯学習のみを行うのではなく、地域づくり、コミュニティ形成の機能を担うべきであるとして、教育委員会所管から首长部局に移管されつつある。中には、北九州市のように、公民館を廃止して地域づくりを行う市民センターに衣替えした自治体も少なくない。

確かに社会教育は教育・学習を通じてコミュニティ形成の機能を担ってきた歴史がある。今、地域におけるソーシャル・キャピタル(一般的信頼、一般化された互酬性の規範、水平性と多様性のある市民社会のネットワーク/パットナムの定義)の重要性が多様な分野で議論されている中で、社会教育・生涯学習の分野でも、地域の絆や信頼関係、助け合いの精神を形成するソーシャル・キャピタルについて議論がなされている。公民館はまさに、教育・学習を通じて地域の中にソーシャル・キャピタルを構築してきた歴史を持っている。

毎年、北九州市から講師として招かれているが、講座終了後は職員の方たちと飲みながら語り合っている。たとえ公民館が廃止されても、職員は社会教育をたえず学びながら、社会教育を軸にした地域づくりに取り組んでいる。制度は後退しても社会教育は逆に広がっている。博物館にもその風が吹いているのではないかと思うのである。

## 平成24年度 東海地区博物館連絡協議会・日本博物館協会東海支部総会に出席して

期 日：平成24年7月18日（水）  
場 所：静岡県立美術館  
参加人数：38名

平成24年度東海地区博物館連絡協議会・日本博物館協会東海支部総会が7月18日、静岡県立美術館にて開催されました。静岡県立美術館は狩野派を中心とした江戸絵画や静岡県ゆかりの画家、富士山や東海道などの静岡県地域を題材にした日本画や浮世絵も多く收藏されています。また、1994年にオープンしたオーギュスト・ロダンの作品を中心に展示しているロダン館は美術館の目玉です。自然光を生かした長円形のドーム状の構造になっており、各作品が好ましい状況で観覧できます。特に「地獄の門」は屋内展示であるため製作当時の姿をそのまま伝えています。

はじめに、東海地区博物館連絡協議会から中村邦明会長代理の挨拶があり、続いて来賓の日本博物館協会の半田昌之専務理事、静岡県教育委員会の寺田好弥教育次長が祝辞を述べられました。

総会では、平成23年度事業報告及び決算報告、平成24年度事業計画及び予算案他の議題について報告、質疑応答がありました。



その後、久能山東照宮の落合宮司により「国宝の久能山東照宮と博物館」と題して講演が行われました。

『久能山東照宮は徳川家康公を東照大神として祀る神社です。東照宮は久能山、日光の他にも全国各地に数多く鎮座していますが、久能山東照宮はそれらの東照宮の中でも最初に創建された神社です。徳川家康公を東照大神として祀る東照宮の歴史は、ここ静岡の地から始まりました。戦国の乱世の時代を駆け抜けた徳川家康公は、数多くの武将の中でも戦国時代に終止符を打ち、天下泰平の世を目指して、理想の国造りにその生涯を捧げた偉大なる人物です。家康公の国政の基本理念は、

国民一人ひとりの人の命を大切に、国内的には教育の充実を図り、対外的には平和外交を進展させるというものでした。家康公は亡くなる直前、家臣たちに「遺骸は久能山に埋葬すること」を遺命として託されました。ご遺命の通りに遺骸はただちに久能山に遷され、二代将軍徳川秀忠公は久能山に徳川家康公を祀る神社を造営することを命じました。久能山東照宮の壮麗なる社殿は江戸時代を代表する大工頭、中井大和守正清の手によって造営され、約400年の時を越えて平成22年12月24日、本殿・石の間・拝殿が国宝に指定されました』とのことでした。



また、久能山東照宮（静岡市駿河区）に徳川家康公の遺品として伝わる西洋時計について説明されました。『大英博物館の時計部門責任者、デービッド・トンプソン氏が「16世紀当時の最高技術を結集した傑作で、歴史的価値が高い」とする調査結果を発表しました。時計は1581年にスペイン国王お抱えのベルギー人時計職人が製作したものです。千葉県沖で難破したスペイン船を救助したお礼として1611年に家康公に贈られ、1979年に国の重要文化財に指定されました。同氏によると、ベルギーで同時代に製作された時計は約20台が現存し、内部の部品が交換されているものがほとんどですが、家康公の西洋時計は現状では動きませんが、2～3カ所を除き当時のままで、「保管用の革ケース付きで残っているのも非常に珍しい」とのこと。同氏は「大英博物館のコレクションに加えたいぐらいだ」と述べ、調査結果をイギリスの学会で発表する予定』ということです。今後は国宝に指定されるよう時計の価値をアピールしていきたい」とまとめました。

（機関紙委員 光記念館 吉井隆雄）

## 平成24年度功労者表彰者紹介

### 古今伝授の里フィールドミュージアム

所長 金子 徳彦

昭和五十四年、私が大和村職員となった年に、東氏館跡が発見され、発掘された庭園は同六十二年に国の名勝に指定されました。翌年から「薪能くるす桜」が対岸の明建神社で行われるようになり、昨年二十五周年を祝ったところです。この薪能の開催を機に、郡上大和は「古今伝授の里づくり」に取り組み、拠点施設として平成五年七月、古今伝授の里フィールドミュージアムが開園されたのです。

始まりの薪能、その後のフィールドミュージアムの企画から建設、運営をはじめ一連の古今伝授の里づくりに最も身近な位置で関わったという幸運に感謝したいと思います。東氏が活躍した時代から数百年を経て、その文化を掘り返し、新しい形で次代へ繋ぐという歴史的場面に立ち会ったわけです。

開館二十周年、当館勤務二十年。何とかさらなるグレードアップを目指し、くれぐれも化石にならぬようにと自らを戒めています。

### 光記念館 主任学芸員 吉井 隆雄

光記念館準備室から15年以上に渡り、学芸員として文化財に関わる活動をしてきました。特に光記念館が岐阜県では2番目となる文化財保護法による「公開承認施設」として認可される努力をいたしました。また、アウトリーチ活動として、高山市内の小・中学校を対象に「出張美術館」を展開し、約20校の各教員と連携し「美術鑑賞事業」を9年以上続けて参りました。また、小企画展ながら、「北斎展」「広重展」「書道展」等日本の伝統文化の展覧会を欧州やラテンアメリカで行い、日本文化の普及に努めております。

東日本大震災においては文化庁の文化財レスキュー事業に参加しました。今後は、岐阜県博物館協会を中心に岐阜県内の博物館が相互協力して災害に対応できる体制を整えるように微力ながら努力させていただきたいと存じます。

### 岐阜県博物館 学芸員 説田 健一

このたびは功労者表彰を頂戴し、まことにありがとうございます。

岐阜県博物館に昆虫担当の嘱託職員として、着任したのが平成3年ですから、ずいぶんと時間だけは過ぎたと感じています。平成8年に正規採用された際、担当分野が動物全般に広がり、自分の本来の専門とは、かけ離れた分野の対応に悩んだこともありました。転機となったのは、岐阜の旧家から寄贈を受けた古い鳥類標本でした。鳥のことは全く分かりませんでした。整理の過程で多くの方の支援を受け、特別展も開催することができました。その後、標本の採集者に関わる研究をするようになり、着任当初と比べれば、自分の視野が広がり、いろいろなことに興味を持てるようになりました。

表彰を頂戴したことを契機に、自分ができる博物館活動を通して、社会に貢献できるように、これまで以上にがんばっていきたいと思います。

### 瑞浪市化石博物館 学芸員 柄澤 宏明

私は、金沢大学を卒業後、縁あって名古屋大学大学院理学研究科に進みました。この時から始まった研究テーマがカニ・エビ類（十脚類）化石の分類学的研究です。化石の分類学的研究を進めていく中で、化石と現存する分類群の系統関係に興味を抱くようになり、外部形態に基づく分岐分類学的手法を駆使した高次分類群の系統学的研究を進めるようになりました。これらの研究では、私が勤めているのは“化石”博物館ですが、古生物学の殻を脱捨てた生物学者となって、現生のアルコール漬けや乾燥標本を主たる研究材料とし料理します。そんなころ、「生命の樹—十脚類」という国際的プロジェクトが平成16年に始まりました。私は、このプロジェクトに参加し、アメリカ・セント大研究者グループと共同で、様々な高次分類群の系統学的・分類学的研究を続けてきました。

まもなく、最近手掛けたエビ類に関する研究論文が発行となりますが、さて、次の研究は何にしようか？メインテーマの賞味期限は10年と、とある先輩研究者から言われたことを思い出す時期となりました。

## 第131回 岐阜県博物館協会 公開講座報告

期 日：平成24年11月10日（土）  
会 場：中山道広重美術館  
講 師：猪俣 令嗣 先生  
参加者：21名

紅葉が色付き始めた恵那市にある中山道広重美術館で11月10日、『アート・ミュージアムをめぐる現場』と題した連続講座の第4回目が開催されました。「浮世絵作品の保存額装とマット装丁」という実に興味深いテーマの講師をされたのは、実際に中山道広重美術館所蔵の浮世絵の装丁に携わられた、株式会社アクト代表取締役の猪俣令嗣先生です。

講座の内容は、紙資料の「保存」を目的とした額装や装丁の方法についてというものです。紙資料は劣化のスピードが速く、また劣化させる要因が様々なため、それを最小限に抑えるための保存方法が必要となります。これはアメリカで公文書の保存のために考案された方法で、猪俣先生も当初は海外の文献を読んで勉強し、道具類も海外から取り寄せる必要があり大変苦労されたということです。



実際に作業に使用されている道具を間近で見せていただきながら気軽に質問する機会もあり、装丁に使われるマット紙を裁断する作業を体験することもできました。また、様々な博物館とお仕事をされている猪俣先生しかご存じないような、裏話をお聞きすることもできました。

今ある状態を後世に残すために、紙資料の保存方法がいかに大切なものかを知ることができる良い企画でした。

(機関紙委員 (財) 土岐市埋蔵文化財センター 中島茂)

## 第132回 岐阜県博物館協会 公開講座報告

期 日：平成24年8月5日（日）  
会 場：日本最古の石博物館  
講 師：高羽 浩 先生  
参加者：24名

財団法人田口福寿会、十六銀行、大垣共立銀行、岐阜信用金庫の協賛のもと、第132回岐阜県博物館協会公開講座が、日本最古の石博物館にて開催されました。

はじめに、井戸敬二七宗町長のご挨拶があり、その後、岐阜大学工学部 准教授 高羽浩先生による『現代技術で探るブラックホール』というテーマの講演が行われました。

講演のはじめには、高羽先生自身が白川村で撮影した天の川の写真をを見せていただき、その美しさに目を見張りました。そして、その天の川は渦巻き銀河であることや、星の寿命についての解説がありました。



また、太陽の寿命は100億年と考えられ現在は折り返しの50億年が経過していることや、星の光度は、星の質量が重いほど明るいなど、いつも夜空を見上げると見られる星の色についてご説明を受けました。

最後には、現代の科学技術でもはっきり解明されていないブラックホールについても、電波望遠鏡の特性についても説明したうえで、電波望遠鏡による観測データをもとに、現段階におけるブラックホールについてわかりやすく解説をしていただきました。

(日本最古の石博物館 亀山桂児)

## 2013年度、第61回博物館大会は岐阜市で開催予定 日本博物館育ての親・棚橋源太郎先生の故郷で、博物館の未来を語り合う

半田 昌之（日本博物館協会専務理事）

文部科学省の調査によると、日本には約5,800の博物館施設が存在するといわれますが、そこには歴史博物館や郷土資料館、美術館、科学館、そして動物園、水族館、植物園など、さまざまな種類の博物館が含まれています。一方、博物館の設置者も、国、都道府県、市町村、企業、団体、個人など多岐にわたり、1年間に数百万人が訪れる人気大型施設から、数千人規模の小さな施設までさまざまです。このように多種多様な形態で存在する博物館の価値は、施設の規模や入館者の数で左右されるものではありません。小さな博物館であっても、それぞれが誕生するに至る物語があり、大切なコレクションを保存し次世代に受け継ぐための大切な役割を果たしています。また、学芸員を中心に行なわれる調査研究の成果を活かし、子どもからお年寄りまでの人々が楽しく学べる場としても、博物館は必要とされています。こうした多くの博物館が、それぞれの特色を活かした活動を展開することによって、私たちは、歴史や美術、自然、科学や地球環境など多岐にわたるテーマについて、楽しく学びながら、明日を考えるための糧を手に入れることができます。

このように博物館は、人々に生涯学習の機会を提供するうえで大切な役割を担う施設ですが、各博物館を取り巻く社会状況は厳しく、多くの博物館が深刻な課題を抱えています。国や地方の財政難、経済環境の悪化、市町村合併や公益法人改革等、文化の重要性への認識とは裏腹に、博物館の現場は、経費や人員の削減等のなかで、苦労の日々が続いています。

財団法人日本博物館協会(日博協)は、設置者や館種を超えた、横断的かつ全国規模で事業を展開する、唯一の博物館の調整機関として、昭和3(1928)年に発足しました。以来、一貫して日本の博物館振興を目的に活動を続けてきました。中核を成す普及啓発事業では、月刊誌「博物館研究」をはじめとする出版物の刊行や、全国博物館大会、文部科学省との共催による全国博物館館長会議などを開催しています。また、研修会の

実施や顕彰による博物館職員の資質向上事業、さまざまなテーマでの調査研究、車いすやベビーカーの配布や博物館総合保険加入などの助成・援助、ICOM(国際博物館会議)の事務局業務と連動した国際交流事業など、多くの事業を展開しています。

特に、年に1回開催している「全国博物館大会」は、全国から博物館関係者が一堂に集い、時宜を得たテーマについて討議する、協会事業の中心的な大切な催しです。そして、次回で第61回目となる2013年度の全国大会の開催地が岐阜市です。

ちなみに岐阜は、「日本博物館の育ての親」として知られる棚橋源太郎先生の故郷です。棚橋先生は、現在の日博協の前身である「博物館事業促進会」創設(昭和3年)の中心的存在であり、昭和26(1951)年の博物館法制定にも尽力した人物です。自身も教育者として、体験や郷土愛に根差した科学教育に取り組む傍ら、一貫して博物館振興に力を尽くし、昭和28(1953)年から7年間は、立教大学で博物館学を講義し、日本の博物館学の基礎を築きました。先生の業績は、「博物館研究」誌に掲載された優れた論文に贈られる「棚橋賞」によって受け継がれ、今なお、博物館振興を志す人々の支柱でもあります。

東日本大震災で被災した博物館の復興をはじめ、日本の博物館が抱える課題は多く、また深刻です。だからこそ、博物館の社会的存在意義を再認識し、将来にわたる日本の博物館の在り方を考え、語り合う場である全国大会の役割は重要です。今回、その大会が棚橋先生の故郷である岐阜の地で開催されることには、関係者の一人として、深いご縁を感じるとともに、大きな意義を持つものと期待しています。

11月7日から8日に予定されている大会の開催につきましては、岐阜県博物館はじめ、岐阜県博物館協会の皆さまには、大変お世話になることと存じますが、何分よろしくご協力下さいますようお願い申し上げますとともに、会場でお会いできますことを、心より楽しみにいたしております。

## 館・園紹介 No.149

### 下呂ふるさと歴史記念館

〒509-2202 下呂市森 1808-37  
TEL・FAX：0576-25-4174

#### ◆はじめに

1972年(昭和47年)5月に「中部山岳考古館」として開館した同館は1995年(平成7年)に館名を変更し、現在に至ります。当館では、飛驒の縄文時代遺跡として著名な峰一合遺跡史跡公園を併設しており、太古の人々の暮らしを館内展示品と野外施設から学ぶことができます。開館40周年を迎えた2012年(平成24年)3月に常設展示品の全面的改装を実施し、下呂市全域の考古・歴史資料を展示する博物館へと生まれ変わりました。



#### ◆展示

常設展示室は3室で構成され、第1展示室は「下呂の歴史の幕開け」をテーマに旧石器時代から平安時代まで、第2展示室は「下呂の人々とその営み」をテーマに室町時代から幕末まで、第3展示室は「下呂の過去から未来へ」をテーマに明治時代から昭和時代までを対象とします。第1展示室から第3展示室まで約300点の展示品



が並び、下呂の歴史上重要なトピックスを一覧できる展示内容になっております。特に、第1展示室の下呂石製の石器や縄文土器の良品、第2展示室の戦国城跡出土品と飛驒林業史資料、第3展示室の明治維新期の資料が豊富です。

#### ◆体験学習

展示品を楽しみながらご理解いただく事業に、毎週土日祝日や大型連休等に体験学習「縄文体験」を実施しています。古代アクセサリー作り、ミニチュア縄文土器作りを体験することができます。小・中学生に社会・歴史学習の機会を提供しています。「縄文体験」はご家族やグループからご好評を頂いております。



#### ◆縄文公園

峰一合遺跡史跡公園(縄文公園)には復元竪穴住居が3棟の他、発掘調査時の竪穴住居が観察できる施設があります。木々が豊富な公園であり、散策に最適です。

【住所】〒509-2202 下呂市森1808-37

下呂ふるさと歴史記念館

【電話・FAX】0576-25-4174

【交通】JR下呂駅より下呂交流会館行き

濃飛バス終点下車徒歩15分

【開館時間】9:00～17:00(12月～2月は16:30まで)

【休館日】月曜日(月曜祝日の場合は翌平日)、  
年間4週の臨時休館日、年末年始。

【入館料】無 料

【駐車場】中型バス1台、普通車25台分

【ホームページ】<http://www.city.gero.lg.jp>  
で「下呂ふるさと歴史記念館」

(下呂市教育委員会 馬場伸一郎)